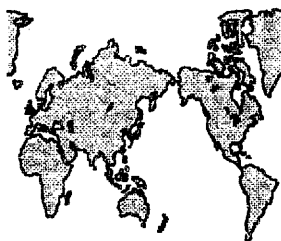


北海道

国際理解教育研究協議会



会報

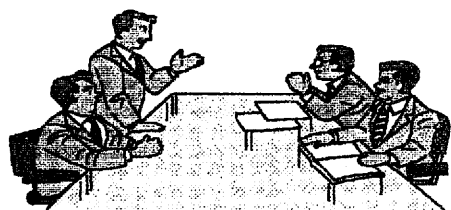
第40号

事務局長 高橋 承造

国際理解教育の重要性が認識され、確かな研究実践が広がる絶好の契機に…

＝大きな成果を残した全国大会(釧路大会)へのご支援・ご協力に感謝して＝

北海道国際理解教育研究協議会
会長 山内 武道
(札幌市立真駒内緑小学校校長)



平成9年度は北海道国際理解研究協議会にとって、これまでで最も大きな研究成果を残すとともに組織面でも確かな充実発展を遂げた意義ある年となりました。

平成9年7月30・31日の両日にわたって開催されました『第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会』は、釧路国際理解教育研究会の皆様のご支援とご協力により、全国大会の歴史に残る素晴らしい研究実践の発表と研究交流の場が設定されました。

1,000名にも迫る参加者だけではなく、全国大会としては初めての授業実践の公開・全国各地からの研究実践の発表と熱気溢れる研究討議、そして広く世界に目を向けた視点での講演とシンポジウム等々、全てが今後の教育実践に生きる内容でした。

この研究大会によって、北海道の国際理解教育の研究内容はもちろんのこと研究組織の面でも、全国で最も進展しているとの評価を受けました。

北海道の国際理解教育のみならず全国にとっても画期的な研究の場が実現した年であり、今後、その成果が生かされ研究実践が確実に充実発展していくものと考えます。

現に網走地区・石狩地区・根室地区・札幌地区はじめとして各地区で独自の研究大会が開催されておりますし、平成10年度の全道大会の開催地であります後志地区では数回にわたって研究の方向性を決定する討議の場が設けられ、国際理解教育の重要性の認識の広がりや確かな実践についての着実な盛り上がりが見られます。

国際理解教育は地域や学校の実態に即して家庭や地域社会と連携して実践することが極めて重要な視点でありますので、各地区独自の研究実践が益々発展していくことは大変望ましい方向です。その交流や研究討議の場を設定し、成果を集約していくのが私共・事務局の重要な使命であると認識しております。

なお、毎年開催されてきました在外教育施設からの帰国教員報告会と来年度派遣教員の研修会が道庁等の経理問題の影響を受けて、本年度から道教委主催で実施できないことになりました。国際理解教育の振興を施策の重点として掲げていることとは逆の方向になったことは大変残念に思います。本年度は間に合いませんが、今後、その重要性を訴え、実現に結びつく手立てを探っていくつもりであります。

先程も申し上げましたが、平成10年度は宇宙科学やスポーツ等の面で数々の著名人を輩出し、歴史ある町・余市町で第19回北海道国際理解研究大会が開催されます。

既に、後志地区の皆様のご熱心な取り組みが始まっています。釧路大会同様、全道各地区の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

研究会のお知らせ

第19回北海道国際理解教育研究大会後志大会

第8回 全国海外子女教育・国際理解教育研究大会北海道70周年大会

第5回 後志国際理解教育研究大会

研究主題

広く世界に目を開き、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成
～共生の心に根づいた国際理解教育の身近な実践を求めて～

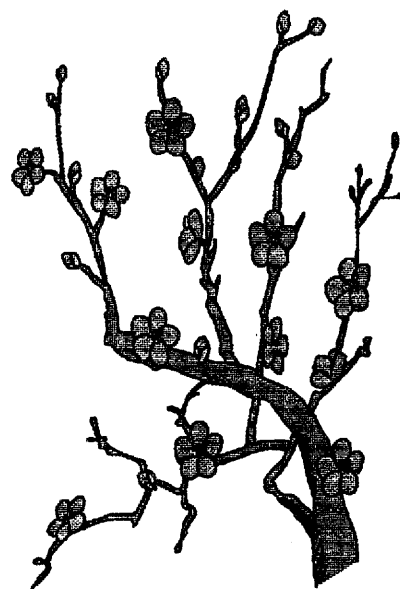
●期日 平成10年10月22日(木)、23日(金)

●会場 全体会場〈開会式・全体会・分科会〉

- ・余市町立東中学校
- ・余市町公民館

授業会場

- ・幼稚園……………北海道キリスト教学園
- ・小学校……………余市町立大川小学校
- ・中学校……………余市町立東中学校
- ・高等学校……………北海道立余市高等学校



●大会日程

〔1日目 10月22日(木)〕

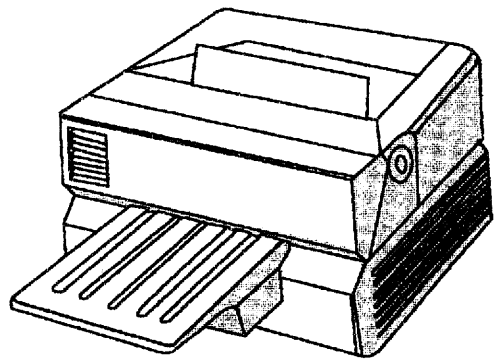
9:00	9:30	10:40	13:00	13:20	13:50	16:00	18:00~
受付	公開授業	移動 授業分科会	昼食	開会式	全体会	移動 課題別 分科会	交歓 交流会

(2日目 10月23日(金))

9:00 9:30

11:00 11:40

受	記念講演	閉会式
付		



●課題別分科会のテーマ

①第1分科会 「学校における国際理解教育の計画と実践」

○学校における特色ある国際理解教育の計画と実践

②第2分科会 「地域社会との連携による国際理解教育の推進」

○国際理解教育の充実のための地域素材や教育力の活用

○確かな国際理解と実践力を育てるための地域社会との連携

③第3分科会 「在住外国人を通じた異文化理解」

○諸外国における教育制度及び教育の現状

○日本と諸外国との文化・習慣及び見方・考え方の相違

④第4分科会 「各地区における国際理解教育の研究交流」

○各地区における国際理解教育の現状と課題

大会事務局よりのお願い!

分科会の各テーマにそって、たくさんの会員からレポート提言があることを希望しています。提言を希望される方は、大会事務局までご連絡ください。

いもりや

大会事務局 泊村立泊小学校内 射守矢 秀治

〒045-0201 古宇郡泊村大字盃村134番地

TEL 0135-75-2003

FAX 0135-75-2008

平成10年度

「派遣教員及び帰国教員研修会」のご案内

今年度は、本会（北海道国際理解教育研究協議会）の主催で、下記のとおり実施いたします。多くの会員皆様のご参加をお願いいたします。

— 記 —

1. 期 日 平成10年3月8日(日) 14:00~17:00

2. 会 場 札幌市真駒内緑小学校

札幌市南区真駒内幸町2丁目

TEL 011-582-2131

FAX 011-582-2058

3. 日程と内容

13:00	14:00	14:15		15:35	16:50
受付	開会式	[研修会] ・ 講話-派遣教師の心構え ・ 帰国教師実践発表	休憩 移動	[派遣地域別研修] ・ 講話-派遣地域での生活の様子や準備 ・ 協議、質疑	閉会式

※研修終了後、派遣者の「激励会」をホテル札幌会館(TEL011-756-1341)にて行います。(18:00~ 会費4,000円)

※参加申し込みの方 白石邦彦(札幌市立平岡公園小)までご連絡ください

TEL 011-885-9414 FAX011-885-9042

4. その他

・翌日、**理事会総会**を開催します。

○日時 平成10年3月9日(月) 10:00~12:00

○場所 札幌市真駒内緑小学校

釧路から余市へ

研究部長 札幌市立真駒内緑小学校 中村淳

網走地区をはじめとして各地区の研究大会の実践が数多く寄せられるようになってきた。これも、全国大会における釧路地区の素晴らしい実践が研究の道標となり、全道の研究実践が益々高まりをみせている結果だと考える。

さて、後志地区では、実行委員会が中心となり今年の10月の全道大会の開催にむけての準備が着々と整った。1月には余市東中学校を会場に研究会が開催され、熱い議論が交わされた。

今回は、後志地区の研究を紹介していきたいと考える。特にこの大会は、年次研究のまとめの大会でもあり、注目していきたいと考える。

その1 後志地区研究主題の紹介

「広く世界に目を開き、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」



共生の心に根付いた国際理解教育の身近な実践を求めて

後志国際理解教育の目標

- 1, 人間尊重の精神 2, 自国文化、異文化理解 3, 豊かな自己表現 4, 国際貢献

その2 めざす児童・生徒の姿

共生の心→自他理解 たくましく生きる→自他共存 身近な実践→自己表現

その3 研究仮説

共生の心を育むための身近な教材を工夫し、場の設定を工夫することによって、自分の足元から世界を見つめ、地球の未来について、自分の頭で考え、行動していこうとする子供を育成することができる。

その4 研究の視点

- ① 子供に共生の心を育むための教材の工夫
- ② 子供が自ら主体的に共生の心を表せる場の設定

大会が開かれる余市は、自然にも恵まれ、毛利氏や船木選手と世界に開かれた町である。今大会も地域の素材を生かしながら、地球を考え、異文化を受容していく授業を目指している。大会では、「共生の心」に根付いた子供たちの様々な自己表現が披露されることだろう。大会の成功にむけて、みんなで後志地区の仲間を支えていきたい。

1 E フォーラム

—— 教室の中で未来を語ろう！ ——

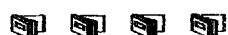
少年犯罪の全国的な広がりや凶悪化には、驚かされるされるばかりである。新聞に週刊誌に「少年」と「ナイフ」という文字毎日踊っている。

評論家たちは、その原因と処置の方法を数々主張しているが、私はどれも対処療法のよる一時しのぎのような気がしてならない。こう思うのは私だけだろうか。

教室の中で「キレる」子供たちと生活している私たちにとって、必要なことはこの事件を結果に終わらせることではなく、この事件を通して子供たちが今の自分を見つめ自分を確立していくことではないだろうか。そして、その鍵は子供たちが自分の人生のビジョンを語るができるかにかかっていると思う。事件を起こした子供たちは、なるほどと思う様々な重荷を背負っていることが多い。しかし、だからといって人の道逃げ出すことは許されない。「なるほど理由はわかるよ。でもね…」なのだ。

ファミコンやナイフなど具体的なものでしか「今」の自分を確かめられない子供たちにとって、自分の手で認めることができない未来を語ることは苦痛で安心できないのである。

だから、私たちは国際理解教育の実践を通して、子供たちの生活が地球全体に広がりを持ち、明日につながっていることを具体的に示すことが必要になるのである。そして、今を切ることは自分自身の人生の道を閉ざすことになることを訴え、「未来の主人公は私なんだ」ということを子供たちに確信させなければならないと考える。



図書紹介



対訳 ・ 英語で折り紙

山口 真 (やまぐち まこと)
講談社バイリンガル・ブックス

著者紹介 1944年、東京生まれ。折り紙作家。

ギャラリー「おりがみはうす」主宰。

日本、アメリカ、イギリス、折り紙協会会員

学校での交流が盛んになり、日本文化を紹介しなければならない機会も増えてきている。そんな時、一番に頭に浮かぶのが「折り紙」であろう。外国旅行中に折り紙を話題に席を隣りあわせたその国の人と友達になった経験をお持ちの人もきっといることだろう。

しかし、いざ折り紙を日本語の分からない人に教えようとする時、『山折り』『谷折り』『折り筋』と言葉一つとっても一筋縄にはいかないことに気が付く。そんな時有効なのがこの本である。折り紙の歴史に始まり、基本的な言葉、そして30以上の折り紙が図や対訳つきで紹介されている。特に図はとて詳しくそのまま小学校1年生の教材にも使えるほどである。

海外からのお便り

以下、今年度、事務局にお寄せいただいた海外からのお便りです。
どの通信文もカルチャーショックの中でその感動をありのままに綴ったものであり、
海外の事情を知る上で貴重なものとなっています。

郵便事情の厳しい中お寄せいただいた先生方に、感謝いたします。

なお、本文をご覧になりたい方は、事務局までお問い合わせください。

事務局	札幌市立西岡小学校 校長 高橋 承造	TEL011-851-9673
	札幌市立豊平区西岡2条9丁目1-1	FAX011-851-2564

大連からの風

中国大連日本人学校 工藤 信司 先生

- ・「香港回帰」 1997年7月1日付
- ・「研修旅行」 1997年11月21日付（以下同じ日付）
- ・「桃源小学校との交流」
- ・「中国の病院初体験」
- ・「一般家庭への電話」
- ・「大連の情報」

カンガルー・ポスト シドニー日本人学校 馬場 信明 先生

- ・「No.11 自動車社会」 1997年1月27日付（No.11~13）
- ・「No.12 治安について、日本人社会とのかかわり、マルチ・カルチャー・カントリー」
- ・「No.13 小切手・カード社会、オープンウィーク」
- ・「No.14 新年度スタート」 1997年5月18日付
- ・「No.15 教育課程変更」 1997年7月1日付（No.15.17）
- ・「No.17 相撲力士来校、修学旅行」

アマゾンだより プラジルマナオス日本人学校 高木 司 先生

- ・ 「No. 2 3 ふらま…、やっぱりブラジルだわっ！、日本人学校は評判が高い」 1997年 2月25日付
- ・ 「No. 2 4 う～ん 厚いには慣れたはずんだけど…卒業式、本校の取り組み*日本文化コース」 1997年 3月25日付
- ・ 「No. 2 5 やっぱり暑かった入学式、アマゾンの旅①」 1997年 4月25日付
- ・ 「No. 2 6 今年も滞った郵便物 校務に支障、裸の付き合い*サウナ風呂、アマゾンの旅②」 1997年 5月25日付
- ・ 「No. 2 7 さあ、停電の時間だ。水の用意を…、」 1997年 6月25日付
- ・ 「No. 2 8 なんと毎日停電、ええっ9月まで？、アマゾン・エコロジー」 1997年 7月25日付
- ・ 「No. 3 0 乾季の入道雲 その正体は？、ホントですか*ピラニアスープは強壯剤？」 1997年 9月25日付
- ・ 「No. 3 1 アマゾンでも煙害、今年も異常な水引～アマゾン河」 1997年10月25日付
- ・ 「No. 3 2 アマゾンの干害深刻、ついに2ヶ月・節電措置」 1997年11月25日付
- ・ 「No. 3 3 日本人 偽札の被害 無頓着な日本人、怪情報に揺れる町 マナオス、企業戦士の苦勞」 1997年12月25日付

バンドン通信 インドネシア・バンドン日本人学校 廣島 直先生

- ・ 「No. 2 2 知らぬが仏、紙捨てる者、金捨てる者、10円のペンと20円のコップ、怒れ 正直者！、スクール伝説」 1996年11月20日付
- ・ 「No. 2 3 本当の幸せとは、とうとう壊れたワープロ、スラバヤ研修記、インドネシアの世界一は これだ！」 1997年 1月10日付
- ・ 「No. 2 4 言語の効用、巷の極秘情報をお知らせします、坪15万ホントかな？、インドネシア住宅事情、水を確保するためには…」 1997年 2月20日付
- ・ 「No. 2 5 あなたは、何色がお好き？、サインは、やっぱりかっこいい！、バンドン物干し事情 etc」 1997年 5月15日付
- ・ 「No. 2 6 無法地帯の争乱、これぞ職人魂、また落ちた！航空機、」 1997年 7月20日付

